第一女子空手組手制す

第一男子準V、日章5位

全国出場権

九州高校新人大会

空手の第40回全国高校選抜大会の予選を兼ねた第40回全九州高校新人大会最終日は8日、宮崎市のひなた武道館主道場で男女の組手団体を行った。九州を南北ブロックに分けて実施。県勢は女子の宮崎第一が2年ぶりの優勝を果たし、全国高校選抜大会（来年3月。東京）の出場権を獲得。男子準優勝の宮崎第一、5位に入った日章学園も全国切符を手にした。

（矢野剛士）

＝本県関係分＝

【男子】組手団体1回戦＝前原（沖縄）5－0小林秀峰、日章学園4－1高田（大分）、清添（沖縄）5－0宮崎工、宮崎第一5－0許斐（大分）▽準々決勝＝鹿児島城西3－2日章学園、宮崎第一4－1鹿児島第一▽準決勝＝宮崎第一3－1大分舞鶴5、6位決定▽決勝＝宮崎第一3－1鹿児島城西

【女子】組手団体準々決勝＝宮崎第一5－0徳之島（鹿児島）▽準決勝＝宮崎第一3－0日章（沖縄）▽決勝＝宮崎第一3－1柳ケ浦（大分）

トーナメント1回戦＝日章学園3－2前原▽同決定戦＝日章学園2（得失点差）2清添▽決勝＝柳ケ浦3－2宮崎第一

【女子組手団体決勝・宮崎第一―鹿児島城西】鮮やかな上段蹴りでポイントを奪う宮崎第一の先鋒・橋口

橋口主将の意地　第一女子

○…新チームで挑む初の九州大会で、全国へ上々の仕上がりぶりを見せた。気合のこもった技を繰り出し、ライバルをねじ伏せた女子の宮崎第一。図師幸一総監督は「コロナ禍で他校の実力が分からない中、まずはきっちり南九州で勝ち切った。2年生がしっかりリードし、1年生も頑張ったと及第点を与えた。

決勝は、先鋒（せんぽう）の橋口妃真莉主将が意地を示した。準決勝まで技が思うように決まらず「最後は仲間に迷惑を掛けないように主将の役目を果たしたかった」。互いににらみ合うじりじりとした展開を、強烈な上段蹴りで打ち破り、3－0で先勝。チームに勢いを呼び込んだ。

1年生2人も続いた。中学で全国大会出場の経験がある次鋒（じほう）・木屋尾春菜、副将・橋本愛梨は、緊張感の漂う一戦にも臆せず前へ。鋭い突きで主導権を握り、上級生を打ち負かした。

「橋口先輩が勝ってくれたので楽な気持ちで戦えた」と木屋尾。橋口主将は「頼もしい後輩たち。全国制覇を目指し、気持ちを一つに鍛錬していきたい」と意欲を示した。

【男子組手団体決勝・宮崎第一―柳ケ浦】果敢に攻め込む宮崎第一の副将・林（右）

重圧受け逆転許す　第一男子

○…地元開催に加え、先に優勝を決めた女子が見守る中での決勝。男子の宮崎第一はプレッシャーに負け、昨年に続いて2位に終わった。花車泰平監督は「日本一を目指すチームが南九州で負けては話にならない」と全国へ奮起を促した。

相手がエースをぶつけてきた先鋒（せんぽう）の敗戦は計算ずく。次鋒（じほう）の高橋遥音主将、中堅の富永尚暉がきっちり勝利を挙げ、2年ぶりの優勝へ王手をかけた。だが、チームの柱の一人、副将の林怜央が、立て続けに突きを浴びて敗戦。先にポイントを奪われ「緊張と焦りで強引になってしまった。自分の組手ができなかった」とうなだれた。

重圧がのしかかった大将・横山太一も敗れ、逆転負け。試合後は全員の目に涙が浮かんだ。高橋主将は「この悔しさを糧に、技術と精神面を一から鍛え直す。全国で借りを返す」と強く誓った。

男子優勝　第一準優勝　形

心肺鍛え「静」表現

○…1年からコンビを組む3人が、息の合った演武を見せた。男子形団体で準優勝した宮崎第一。チームの中心を担う岡園陽向は「3人で何度も練習してきた成果を出せた」と胸を張った。

3人が最も重視したのが「静」の部分。形では呼吸も含め大きな差は生じない。チームの中心を担うなどして、心肺機能を鍛え上げた。細かな技術に関しては、部内で数少ない形専門の岡園が、東京五輪日本代表・喜友名諒の動画を見て研究。組手中止で、3人は「全国8専門の奥村剣紳、久保雅弘以上を目指しこれまで人にアドバイスしながら連携を深めてきた。

昨年も予選を突破し今春の選抜大会にも出場予定だったが、コロナ禍で中止に。3人は「全国の舞台に立ち、ライバルと共に成長したい」と意気込んだ。

【男子形団体決勝】息の合った動きを見せ、準優勝した宮崎第一の（左から）奥村、岡園、久保

選手ひとこと

宮崎第一・高橋遥音（男子組手個人61キロ級で優勝）「練習してきた上段突きや蹴りがしっかり決まった。無駄な失点もあったので、全国大会までに修正する」

宮崎第一・富永尚暉（男子組手個人68キロ級で頂点）「決勝は、1点を追う残り数秒から得意の上段蹴りで逆転した。最後まで諦めなかったことが優勝につながった」

宮崎第一・橋本愛梨（女子組手個人53キロ級を制）「相手の出鼻に合わせる攻撃ができた。自信のある突きで、全試合失点ゼロに抑えられたのは良かった」